

# 岩手大学農学部・東京農工大学農学部 共同獣医学科



課題

1. 教育
2. 施設
3. 経費
4. 運営



岩手大学

高度産業動物

獣医療の実施



東京農工大学

高度伴侶動物

獣医療の実施



公衆衛生・動物衛生の充実



動物医学食品安全教育研究センター(FAMS)

国際家畜感染症防疫研究教育センター



# 教育科目 コア・カリキュラム

卒業要件 202単位 + 共用試験

● **共通教育科目 44単位** (必修19単位、選択25単位)

「大学教育導入科目群」、「スポーツ健康科目群」、「外国語科目群」、「人文社会科学科目群」、「理数系基盤科目群」及び「配置大学特色科目群」

● **共同獣医学科専門教育科目 158単位** 教員数(31+39)70名

▽ **基礎獣医学科目**

- ・基礎獣医学科目群(24科目41単位) (60科目88単位)
- ・病態獣医学科目群(14科目28単位)
- ・応用獣医学科目群(13科目19単位)

▽ **実証獣医学科目**

- ・小動物臨床獣医学科目群(27科目35単位) (38科目50単位)
- ・大動物臨床獣医学科目群(11科目15単位)

▽ **選択科目**(8科目14単位、6単位選択)

▽ **専修科目**(2科目14単位)

## 専門教育科目の授業形態

- 共同教育科目

両大学の学生に講義、実習、単位認定

岩手大は22科目41単位を担当

農工大は23科目41単位を担当

合同授業(獣医学概論、獣医倫理＋選択6単位)

遠隔講義(54単位:27単位＋27単位)

参加型臨床実習(小動物2単位、産業動物2単位)

- 通常科目

同一シラバス、両大学でそれぞれ開講、単位認定  
(62単位(6単位:選択))

- 卒業演習および卒論(14単位)



# 基礎獸医学科目 (24科目41単位)

赤字:農工大  
青字:岩手大  
白字:各々

1年次  
獸医学概論

発生学  
獸医倫理

2年次  
運動器・神經解剖学  
内臓・脈管系解剖学  
組織学

統合生理学  
器官制御生理学  
獸医遺伝育種学  
実験動物学、  
動物行動学  
基礎放射線学  
獸医基礎生化学

3年次  
内分泌学  
獸医代謝生化学  
基盤薬理学  
統合薬理学

4年次  
獸医事法規

2年次  
解剖学実習  
組織学実習  
生理学実習  
実験動物学実習

3年次  
生化学実習  
薬理学実習

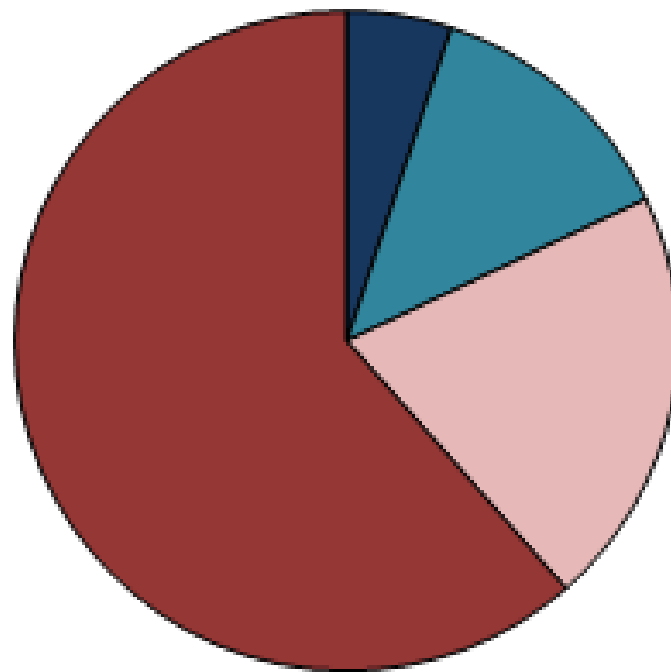
# 合同授業

導入教育  
選択科目

意義の明確さ



今回の宿泊所に泊まって良かったと  
思いますか？



■ 1. そう思う

■ 2. 少しそう思う

□ 3. あまりそう思わない

■ 4. そう思わない

# 遠隔講義の問題点

方法

効果



# 課題

## ◎機器面：性能と運営

- 双方向ビデオ会議システム
- CG システム
- 著作権

## ◎心理面：相手がいないコミュニケーション

- 学生側：教員から問いかけへの返答
- 教員側：学生の集中度や雰囲気への把握



# 遠隔講義は対面講義に換えられるか？

## スクリーン上の資料は見易さ

問1	スクリーン上の資料は見やすいですか？	人数	割合
1	字のにじみが気になる	3	8.82%
2	画面の切り替えのタイミングが教員の音声とずれる	1	2.94%
3	特に問題はない	30	88.24%

## 講義資料の利用について

問2	スクリーン上の資料と手元の資料とどちらが利用しやすいですか？	人数	割合
1	スクリーン上の資料のみ必要	1	2.94%
2	手元の資料のみ必要	1	2.94%
3	両方あるのが望ましい	30	88.24%

## 遠隔授業における声の聞き易さ

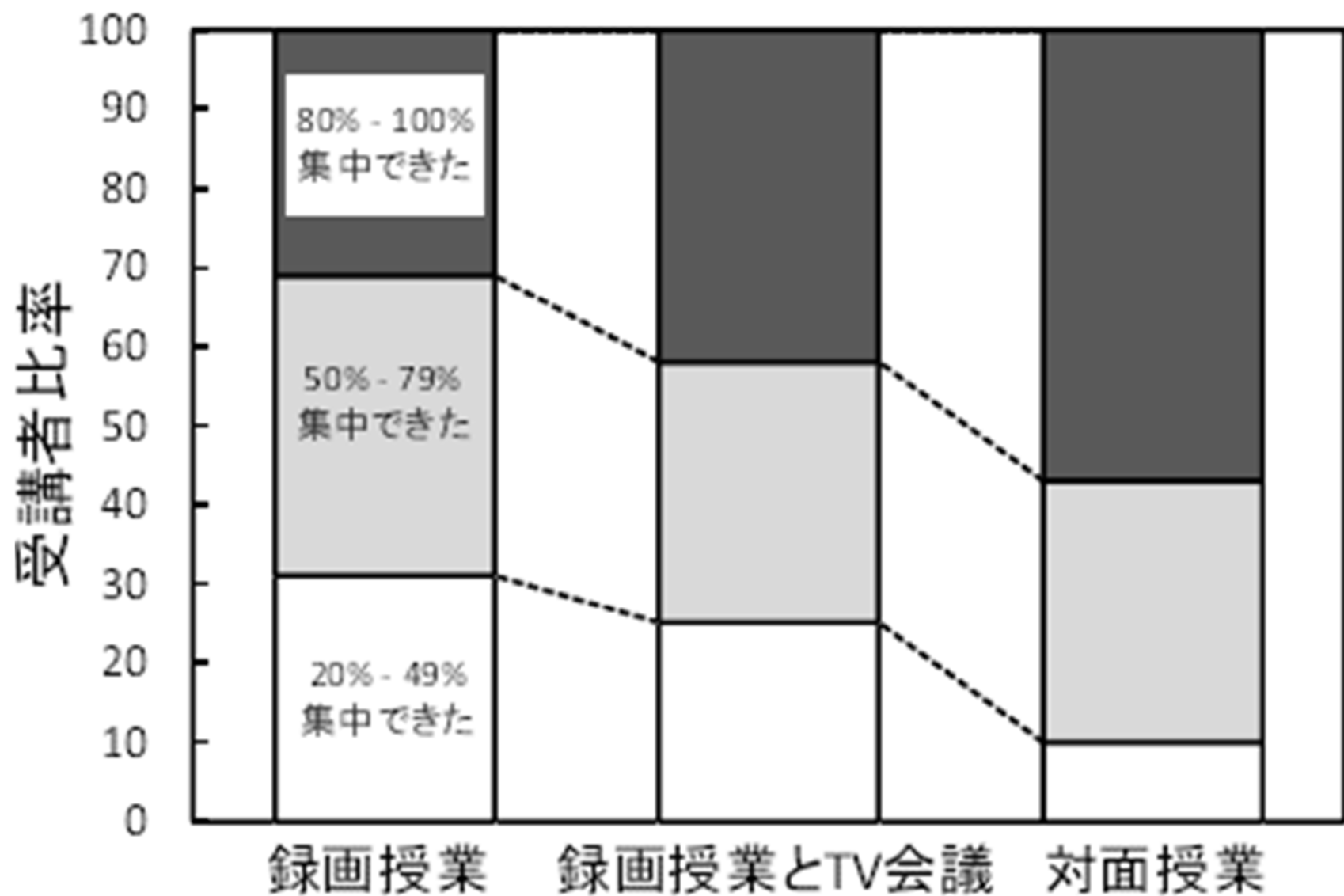
問3	対面型講義（通常の講義）と比較して声は聞きやすいですか？	人数	割合
1	通常の講義よりも聴きやすい	9	26.47%
2	通常の講義と同等の聞きやすさである	22	64.71%
3	通常の講義よりも聴きづらい	0	0%

(武工大 環境情報学部 情報メディアセンタージャーナル .後藤ら, 2006:7,6-13)

## 満足度

遠隔授業は、通常の対面授業と比べて、良かったと思いますか。

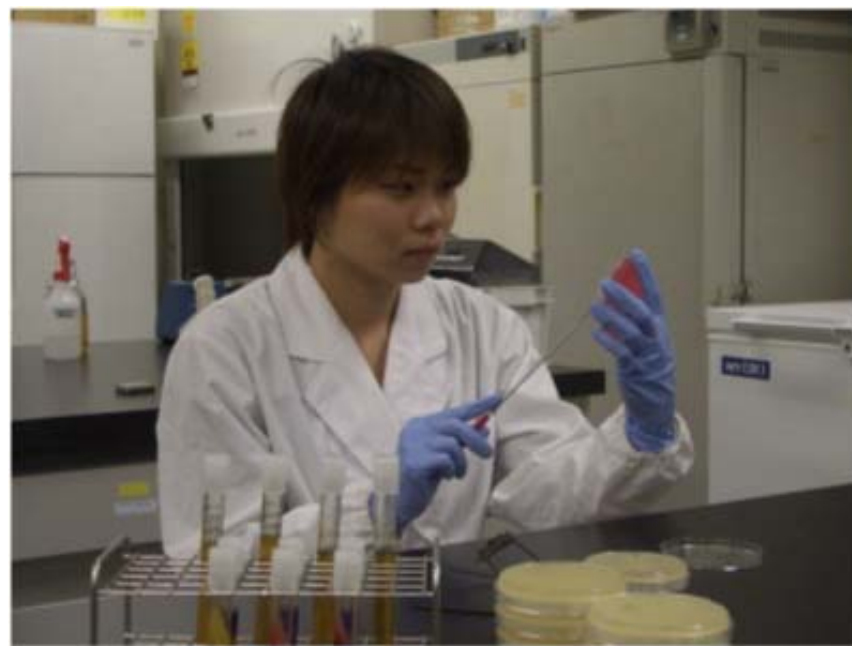
1 全く良くなかった	0 %
2 あまり良くなかった	18.92 %
3 どちらでもない	51.35 %
4 少し良かった	18.92 %
5 とても良かった	2.70 %



平成23 年度電子情報通信学会東京支部学生会研究発表会(ヌルナビラモハメド,三好匠)

# 体験型授業

- 参加型臨床実習
- 公衆衛生実践実習



# 産業動物実習の実際例(岩手大学)

## 1日目

8:30 大学発

9:00 小岩井牧場着

注意事項、小岩井・NOSAI・JA班  
ごとに診療車に分乗

9:30 実習開始

11:30 小岩井牧場発

12:00 大学着

13:00 臨床病理検査、診療カルテ作成

## 2日目

9:00 症例検討会

12:00

13:00 診療カルテの作成と送付





# 公衆衛生実践実習

従来のインターン実習(選択科目)を充実強化し、公衆衛生実践実習(必修科目)を実施し、家畜衛生・公衆衛生分野における人材の育成を強化

## 実習プログラム

### 実習施設

家畜保健衛生所  
食肉衛生検査所

学生実習の受入れ、  
最前線での実践的・  
実務的な実習



必修

岩手大学・東京農工大学共同獣医学科

家畜衛生と公衆衛生分野の最前線を幅広く見学・体験させるとともに、感染症防疫対応と放射線衛生の実際を学ぶ「公衆衛生実践実習」の教育プログラムを実施

食品安全教育研究センター(FAMS)  
国際感染症教育センター

### 指導者養成

家畜保健衛生所などの家畜衛生分野、食肉衛生検査所などの公衆衛生分野、NOSAIなどの臨床分野で働く獣医師を対象とした卒後教育の講義・実習プログラムを実施

# 体験型実習の課題

## (1) 実習場所・施設(実習用動物・実習フィールドの確保)

- ◎実習用動物
- ◎実習フィールド

## (2) 実習指導者の確保

- ◎臨床実習・実践実習指導者の養成

## (3) 地域との連携

- ◎家畜保健衛生所、NOSAIなどとの連携
- ◎大学の存在意義

# 施設整備

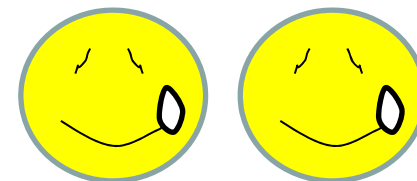
▪ 遠隔講義システム



▪ 宿舎



▪ 実習施設



# 財政面

誰が負担するか？

学生移動

教員移動

教育設備  
共用試験、自習システム

国費

教育機関

受益者

# 運営に関わる経費の学年別所要額試算

単位：千円

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	年次に 関わらない
1. 人件費	(1)非常勤職員		607	303	2,430	1,924	2,430	
	(2)TA	15	263	380	176	176	731	
	(3)非常勤講師		225	180	396	288		
2. 旅費	(1)対面講義		195	234	117	195		
	(2)集中講義	650	53	53	53	106		
	(3)会議に関する旅費							<b>429</b>
3. 役務費	(1)バス借上げ費	660	660	660	1,160	1,890	3,150	
	(2)学生宿泊費	490	490	490	490		1,348	
	(3)遠隔講義室保守料							<b>2,800</b>
合計(設備費除く)		<b>1,815</b>	<b>2,493</b>	<b>2,300</b>	<b>4,822</b>	<b>4,579</b>	<b>7,659</b>	<b>23,668</b>

※ 年度が進むにつれて加算されていく。

完成年次以降は年度あたり3,000万円程度の運営費が毎年必要となる。

共用試験？



# 運営上の問題

専用事務組織

担当教員の負担

# 共同獣医学教育

- One World One Health
- 実践力の養成
- 高度獣医療

このスケールで教育が可能か？

- 遠隔講義の教育効果
- 経費・施設の確保
- 指導者の確保
- 両大学の教員/事務部の意志の疏通
- 学生/教員/事務部の負担増

岩手大学

- スケールメリット
- urban/rural
- 教育バランス
- 地域との連携

• 540 km

東京農工大学

分担・相互補完

